

マネジメントの知識を活かし チーム医療・経営を実践

急性期医療を主体に、健診センターや透析センター、訪問看護ステーションを有し、地域住民の健康増進に貢献している聖隷佐倉市民病院。副院長、外科部長、健診センター所長を兼務する有田誠司さんは、安全で良質な医療の提供と健全経営の両立を目指し、より良いチームづくりにまい進している。



出張の健診・予防接種について議論する外健診委員会の様子

社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷佐倉市民病院
副院長、外科部長、健診センター所長
有田誠司さん
医療経営士2級



新たなサービスに向け 他業種との連携も模索

副院長・健診センター所長の管理者、健診センターの医師、外科医の三足のわらじを履く有田誠司さん。病院の経営会議や健診センターの運営会議に出席し、マネジメントを行う一方、健診や人間ドック受診者への結果説明や健康指導、市民公開講座での講演、週3回の外科外来、手術、病棟回診などを担っている。

医療経営士資格を取得したのは、医療に特化したマネジメントを学ぶためだ。「副院長になってから、『安全で良質な医療の提供』と『健全経営』の両立という大命題を解決するために、経営学や組織論を学んだのですが、やはり企業経営と医療経営では異なる点が多く、悩んでいました。そんなと

き、すでに医療経営士を取得していた当時の事務長に紹介してもらい、受験を決めました」と話す。

医療経営士の資格取得を通じて得た知識は、診療にもマネジメントにも役立っていると話す有田さん。たとえば、身につけたマーケティングや分析手法を使い、会議やミーティングで議論を活性化するための資料を提供している。これは、職員が積極的に議論に参加できるようにするためだ。

「チーム医療、チームマネジメントを実践していくには、輪の中心には患者さんや受診者さんがいて、それを多職種が手をつないで支えているという自覚を職員に持つてもらうことが大切です。そのためには、職員が自分に何ができるかを考え、議論の場で発信していくことが必要。そのための環境づくりにも、医療経営士として



石川英男

執行役員、事務長

有田先生は病院の経営課題をどう解決すべきかを考え、常に率先して動いてくださいます。たとえば、昨年、外科病棟の稼働率が下がってしまった時期も原因と対応策を病棟スタッフとともに考え、改善に向けた指揮をとっておられました。ほかにも、手術室の稼働率アップ、緩和ケア病棟の運営改善など、さまざまな場面で力をお借りしています。

当院は再来年、増床を伴う新棟オープンを予定しています。手術室も増えますし、健診センターも拡張予定です。最大限のパフォーマンスを発揮し、より良い医療を効率的に提供していくためにどうしたらよいか、ぜひ一緒に考えていきましょう。



田代律子

健診センター事務長

有田先生はよく、「毎年、何か新しいことにチャレンジしよう。そのほうが楽しいから」とおっしゃいます。実際に毎年、新しい健診メニューを設けたり、イベントを開催しているのですが、その時もスタッフからの提案を尊重し、意見を聞いてくださるので、職員から「こんなことをしてみたい」「次はこれをやろう」といった意見が積極的に出されるようになり、やりがいにもつながっています。

どんな時も職員の声に耳を傾けてくださいますし、指示・命令をするのではなく、自ら率先して動き、行動で示してくださるリーダーです。私は昨年10月に事務長になったばかりなのですが、有田先生から多くのことを学ぶことができる環境に感謝しています。



高柳美奈子

看護師
健診センター保健指導課課長補佐

健診センターでは毎月ミーティングをしているのですが、ある時有田先生が「受診者さんの満足度を高めるには、働いている皆さんの満足度が高くないはいけません。ですからまず、職員満足度を高めたいと思います」と宣言されました。実際、育休を取得する女性医師へのサポートを行ったり、チームメンバーの心のケアが大切だと心理カウンセラーの資格を取得されました。自ら実行に移される姿勢は見習わなければと思っています。

また、ミーティングの場などでリーダーが明確なメッセージを発してくださると職員はどこに向かうべきか理解できます。自分に何ができるかを考えながら、より良いサービス提供を目指していきたいですね。



「安全で良質な医療の提供」と
「健全経営」の両立を目指す

Profile

ありた・せいじ

●1986年、千葉大学医学部卒業後、同大学医学部第二外科に入局し、外科医の研鑽を積む。94～99年、米国UCLA Medical Centerに留学、1型糖尿病に対する膵島移植の研究・臨床に従事。国立佐倉病院外科医長を経て、2004年、聖隷佐倉市民病院外科部長。08年、健診センター所長兼任、12年4月より現職



健診センターでは、医師として受診者への説明なども行う

学んだことが生きています」
 今後は、院内の多職種だけではなく、院外にも目を向けて、他業種との連携に取り組みたいと考えているという。

現在進めているのが、ファミリーレストランやスーパーマーケットとの提携による健康食の提供だ。健診センター内に管理栄養士をリーダーとする栄養チームを結成し、有田さんもここに加わってプロジェクトを進行している。

このほか、民間のフィットネスクラブとの連携も模索中。健診センター受診者が安全に安心して運動に取り組むことができるように運動処方せんをフィットネスクラブに提供し、その成果をフィードバックしていきたく思います。

「相手は営利企業なので、事業として成立させるためにどうすべきかなど、院内連携とは違った視点で医療機関単体ではできないサービスを提供できるようにあります。ほかにもたくさんやりたいことがあるので、楽しみながら取り組んでいきたいと思っています。院内外を問わずより良いチーム医療を実践することで職員の満足度を高め、それが患者・受診者の満足度に反映され、さらに良いチームをつくるモチベーションにつなげていく」。そんな良いサイクルをつくっていきたくいですね」と有田さんはほほ笑む。



聖隷佐倉市民病院
 住所：〒285-8765 千葉県佐倉市江原台2-36-2
 TEL：043-486-1151
 URL：http://www.seirei.or.jp/sakura/
 病床数：304床